

福知山鉄道館ポツポランドのあり方検討委員会

論点まとめ

平成30年11月

福知山鉄道館ポツポランドのあり方検討委員会

目次

1. はじめに 【杉岡委員長】
2. 福知山鉄道館ポッポランド概要 【事務局】
 - (1) 設置目的
 - (2) 施設概要
 - (3) 利用実績
 - (4) 休刊の経緯について
3. 福知山鉄道館ポッポランドのあり方検討状況について 【事務局】
 - (1) 委員構成
 - (2) 委員会経過と概要
 - (3) 視察
4. 提言 【杉岡委員長・赤井副委員長・吉見副委員長（・井上委員）・事務局】
 - (1) 設置目的
 - (2) 実施主体
 - (3) 事業内容
 - (4) 設置場所
 - (5) 資金調達
5. 参考資料 【事務局】
 - (1) 類似施設の状況
 - (2) 福知山市内の公共施設利用状況
 - (3) 報道一覧
6. おわりに 【委員全員】
委員メッセージ

1 はじめに

福知山は「鉄道のまち」です。その歴史は古く、1899年（明治32年）に阪鶴鉄道（現在のJR福知山線の前身）が大阪と福知山（南口）を5時間で結んだところから始まり、早や120年の歴史が確認できます。その後も福知山～新舞鶴間（1904年）、京都～福知山間（1910年）、福知山～城崎間（1911年）がつながると共に、1923年（大正12年）には福知山と大江町河守間を運行する北丹鉄道が運行を開始。まさに交通の要衝として役割を果たし、金融や産業が集積する北近畿の中心地としての地位を確立してきました。

その後も福知山が丹波・丹後・但馬・若狭の結節点に位置していたことなどから、全国27地域に置かれた鉄道管理局の一つが福知山に置かれ、1965年（昭和40年）頃には、この管理局だけで北近畿最大規模の5700人以上の職員を擁するなど、雇用面や住居、飲食などによる経済面でも福知山の歴史に大きく貢献してきました。

そのような「鉄道のまち・福知山」の歴史を後世に伝えるために1998年（平成10年）に新町商店街に開館したのが「福知山鉄道館ポッポランド」です。ポッポランド1号館では、20年前の福知山駅周辺を再現したジオラマや、SL動輪、国鉄駅員の制服や帽子、かつての北丹鉄道の路線図や切符など、500点を超える貴重な資料が展示されました。

また、2000年（平成12年）には広小路路通りに2号館が併設され、実際に福知山を走っていた蒸気機関車C58形が展示保存され、福知山鉄道館ポッポランドは福知山市民はもちろんのこと、全国から鉄道ファンが集まる場となり、中心市街地の活性化に貢献してきました（2014年に運営者が新町商店街事業協同組合から福知山鉄道館ポッポランド運営委員会に変更）。

しかし、2018年（平成30年）には年間2万人を超える来場者を集めるポッポランドになったものの、建物の老朽化や耐震性能の不備により、一般入館者等の安全が確保できないということで、2018年3月31日にやむなく休館する運びとなりました。

そこで、施設のあり方を判断するに当たっては、設置目的や主体、内容、資金調達、市民理解を改めて検討すべきとの福知山市の諮問を受け、2018年7月4日に立ち上がったのが、本ポッポランドのあり方検討委員会になります。本委員会の開催にあたっては、少しでも市民の意見を反映すべく6月4日～22日には「鉄道のまち」「福知山鉄道館ポッポランド」に関するアイデアを募集も行いました。また、10名の委員のうち、2名は市民公募とし、市民参加型で議論を進めてきました。

本委員会では、そのような市民からのアイデアや計6回の委員会での議論のほか、市内外の2回の視察内容を踏まえ、ゼロベースで創造的な議論を重ねてきました。とりわけ、設置目的については時代や市民のニーズの変化も踏まえ、以下のように大きく見直しました。

「福知山市内に、子どもからお年寄りまで幅広い層が集まる拠点をつくり、「鉄道のまち」福知山として発信するとともに、「みんなでつくる」「まち全体が鉄道のまち」をキーワードに、市内外を問わず人々が交流のできる場と機会を創造する。もって、先人の努力で培ってきた「鉄道のまち」福知山の歴史を市民の誇りとして未来に継承するとともに、周辺地域とも連携しながら鉄道資源を活用した持続可能な観光地域づくりに寄与する。」

このミッションの下、本提言書ではポッポランドのリスタート（再開）に向け、持続可能かつ具体的な提言をまとめてあります。

これまで先人が積み重ねて来られた「鉄道のまち・福知山」を次代に継承し続けるためにも、1つでも多くのアイデアを取り入れていただければ望外の喜びです。

ポッポランドあり方検討委員会
委員長 杉岡 秀紀

2 福知山鉄道館ポッポランド概要

(1) 設置目的・位置づけ

①平成10年度設立趣旨

『空洞化する中心市街地の活性化を図るため、福知山駅から福知山城、各市街地商店街の回遊性を図る一つの拠点として、本市の産業の牽引車である鉄道をテーマとした物販と展示を中心とした施設を開設し、子どもからお年寄りまで幅広い層の集客の一拠点を作る。また、鉄道の街福知山をアピールする情報基地として、鉄道を愛する人々の交流の場とし、中心市街地のまちなか再生の起爆剤とする。』

②福知山市中心市街地活性化基本計画 第1期計画(平成23年度~平成27年度)

「回遊性を高めるこだわりのある集客施設整備」を基本方針の1つに掲げ、「ポッポランド」を全市的核施設と位置づけ、2号館の開設、「ミニSLフェスタ」の実施など「鉄道のまち」をアピールしてきた。

(2) 施設概要

①名 称：福知山鉄道館ポッポランド1号館

②住 所：福知山市字下新32番地

③構 造：鉄骨鉄筋コンクリート造 5階建て(昭和6年築造)

1階 福知山鉄道館ポッポランド1号館/2階 新町文化センター

3階・4階 資料保管庫/5階 機械室

④床面積：1630.67㎡(1階 482.24㎡のうち、297.13㎡を利用)

⑤開館時間：午前10時~午後5時30分

⑥休館日：毎週木曜日、年末年始(12月28日~1月3日)

⑦入館料：無料

⑧展示内容：SL動輪、ジオラマ模型、旧国鉄・北丹鉄道に関する資料ほか 約500点

⑨運営主体：新町商店街事業協同組合(平成10年度~平成25年度)

福知山鉄道館ポッポランド運営委員会(平成26年度~平成29年度)

(3) 利用実績

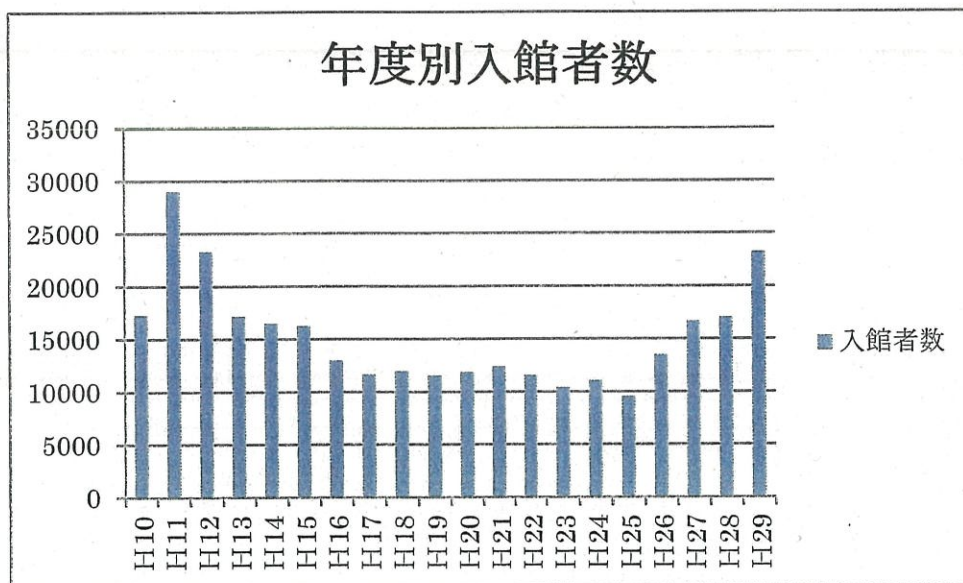
平成10年9月25日に開館し、翌年度には2号館(蒸気機関車C5856号展示)が開館したことで、平成11年度には3万人近い入館者が訪れたものの、その後は減少傾向にあった。

平成26年度には、旧国鉄OB等で組織する福知山鉄道館ポッポランド運営委員会が運営を引継ぎ、当時の機関区の様子などを聞ける「語り部」が人気を呼び、一時、1万人を割っていた入館者が平成29年度には2万人を越えるまでに回復した(図1)。

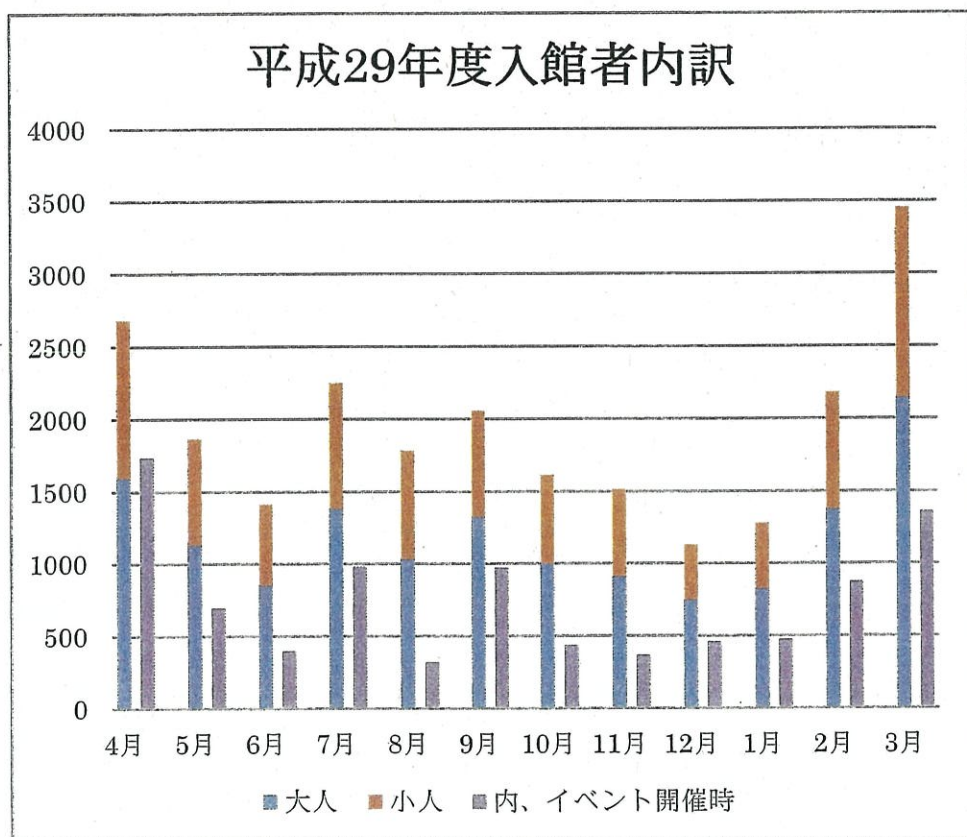
平成29年度については、大人14,291人、小人8,922人の計23,213人が入館している。また、運営主体による自主イベントや近隣商店街や公園等でのイベント実施日(年間27日)での入館者数は9,061人であり、イベント実施日のみで年間入館者数の39%が

訪れている。なお、市内小学校の郊外学習等での見学は平成29年度に3校・223人が訪れている。

運営団体関係者へのヒアリングを実施したところ、観光ガイドのコースになっており、60代以上の観光客が多く訪れているほか、京阪神から鉄道マニアが訪れているとのことである。



(図1：年度別入館者数)



(図2：平成29年度入館者数内訳)

(4) 休館理由・経過

①理由

- ア. 建物の老朽化や耐震性能の不備により、一般入館者等の安全性を確保できない
- イ. 適当な移転先を判断するためには目的や内容、資金調達方法等について検討が必要

②経過

- | | |
|---------|--|
| 平成 25 年 | 京都銀行から賃貸借契約解除意向の提示 |
| 平成 26 年 | 新町商店街が運営から撤退し、4 月 1 日から運営委員会が継承 |
| | 7 月 平成 29 年度までの賃貸借契約の延長を依頼し了承 |
| 平成 29 年 | 3 月 京都銀行に再度の延長を依頼する |
| | 10 月 京都銀行と平成 33 年 3 月末まで賃貸借契約期限延長の覚書締結 |
| | 12 月 福知山鉄道館ポッポランドの今後のあり方について全議員と報道機関に配信 |
| 平成 30 年 | 1 月 福知山鉄道館ポッポランド運営委員会から市長宛に運営継続に関する要望書が提出される |
| | 3 月 西日本鉄道OB会から議長宛に福知山鉄道館ポッポランドの早期再開を求める請願書が提出される |
| | <u>3 月 31 日をもって休館</u> |

3 福知山鉄道館ポツポランドのあり方検討委員会 検討状況

(1) 委員構成

名前	所属等
足立 和義	福知山鉄道館ポツポランド運営委員会 館長 西日本鉄道OB会福知山地方本部 顧問
足立 政人	福知山商店街連盟 会長
井上 敬規	プラスソーシャルインベストメント株式会社 取締役
榎原 傑	元京都北都信用金庫 常務理事 元福知山市土地開発公社 第三者委員
梶村 誠悟	福知山商工会議所 専務理事
杉岡 秀紀	公立大学法人福知山公立大学 准教授
福島 慶太	一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社 福知山地域本部 福知山観光協会
吉見 美晴	京都府行政書士会 常任理事 福知山市社会福祉協議会 評議員
赤井 貴恵	市民公募委員
本多 洋子	市民公募委員

(2) 委員会経過と概要

	開催日時及び場所	議事概要
第1回	日時：平成30年7月4日（水） 午後3時～午後4時30分 場所：市民交流プラザふくちやま 4階 会議室4-1	福知山鉄道館ポツポランドの意義について ○議論の結果、設置の意義について確認ができた が、漫然と移転先を検討するのではなく、財政状況等を踏まえて、観光、子育て支援、生涯教育などの分野のソフトと絡めて検討していくことも

		併せて確認。
第 2 回	日時：平成30年8月10日（金） 午後2時30分～ 午後4時15分 場所：市民交流プラザふくちやま 4階 会議室4-1	<u>福知山鉄道館ポッポランドの施設目的について</u> ○施設目的原案を作成
第 3 回	日時：平成30年9月7日（金） 午後2時30分～ 午後4時00分 場所：市民交流プラザふくちやま 4階 会議室4-1	<u>福知山鉄道館ポッポランドの施設目的及び運営主体、施設内容、場所、資金調達について</u> ○施設目的原案を修正 ○設置・運営主体について、公設民営を中心に検討していく方針を決定
第 4 回	日時：平成30年10月5日（金） 午前10時～ 午前11時45分 場所：市民交流プラザふくちやま 3階 会議室3-2	<u>福知山鉄道館ポッポランドの施設内容、場所について</u> ○「見る・学ぶ」「遊ぶ・楽しむ」「癒される」をキーワードに、コンテンツを出した。 ○鉄道マニア向けや子供向けなど機能を分けて、3号館・4号館という分散型施設も視野に検討していくことを確認。
第 5 回	日時：平成30年11月9日（金） 午前9時30分～ 午前11時30分 場所：福知山市総合福祉会館 3階 34号室	<u>福知山鉄道館ポッポランドの場所、資金調達について</u> <u>提言書（案）について</u>

(3) 視察

第 1 回	日時：平成30年9月19日（水） 午前10時～午後0時 場所：加悦SL広場	施設運営状況等について
第 2 回	日時：平成30年10月25日（木） 午後1時～午後4時 場所：市内施設 (丹波生活衣館) (勤労青少年ホーム) (児童科学館) (ポッポランド2号館) (西駅公園)	施設運営状況、現況等について

4 提言書（素案）

(1) 設置目的

① ビジョン

「福知山市内に、子どもからお年寄りまで幅広い層が集まる拠点をつくり、「鉄道のみち」福知山として発信するとともに、「みんなでつくる」「まち全体が鉄道のみち」をキーワードに、市内外を問わず人々が交流のできる場と機会を創造する。もって、先人の努力で培ってきた「鉄道のみち」福知山の歴史を市民の誇りとして未来に継承するとともに、周辺地域とも連携しながら鉄道資源を活用した持続可能な観光地域づくりに寄与する。」

(参考) これまでのポッポランドの設置目的は「中心市街地の活性化」であった。とりわけ、福知山駅・福知山城・各市街地商店街の回遊性を図る一つの拠点として期待され、新町商店街内に1号館、広小路通り沿いに2号館が設置された。しかし、商店街全体が7商店街から4商店街になるなど、時代が変遷する中でポッポランドの運営主体も変わった。これを機に設置目的も時代に合わせ再検討すべき（杉岡委員）。

② キーワード

a. 「歴史継承」

(参考) ・ 福知山の産業の牽引車として鉄道が発展を支えてきた。とりわけ、福知山市には全国27しかない鉄道管理局が設置された歴史があり、この背景には先人の方々の努力があった。何よりそのことによって、福知山市が鉄道のみちと言われる所以であるので継承していくべきである（足立委員）。

b. 「観光振興」

(参考) ・ 福知山市は観光の目玉があまりない。福知山と言えばポッポランドというくらい、外から観光客を呼べるような施設にできれば、地域の活性化にも繋がるのではないか（吉見委員）。

c. 「子育て支援」

(参考) ・ お子さんと親と一緒に過ごすことができることも考えて、子育て世代にとって魅力的な施設で、子育て支援に貢献することができれば、出生率も増えて、空き家対策などにもつながるのではないか（吉見委員）。

・ 子育てされているのは、保育園に入るまでの0歳～2歳の子がいる方が多く、そうした親子が行ける場所というのは案外少ない。また、福知山市でずっと住まわれている方よりも、転勤などで新しく福知山市に来られた方が多く、子育ての場やつながりの場ということも求められる方が多いのが現状。そうした点で、ポッポランドもそのあたりを担える価値があるのではないか（赤井委員）。

d. 「市民参加」

(参考) パパ・ママたちのグループが立ち上がって、子どもと一緒に遊ぶということも必要。そうしたことによって担い手を広げていくということにつながる。プロのポツポツ屋にしかできないことはプロに任せて、それ以外のところは市民参加でやっていくという市民参加型の運営も必要ではないか (杉岡委員)。

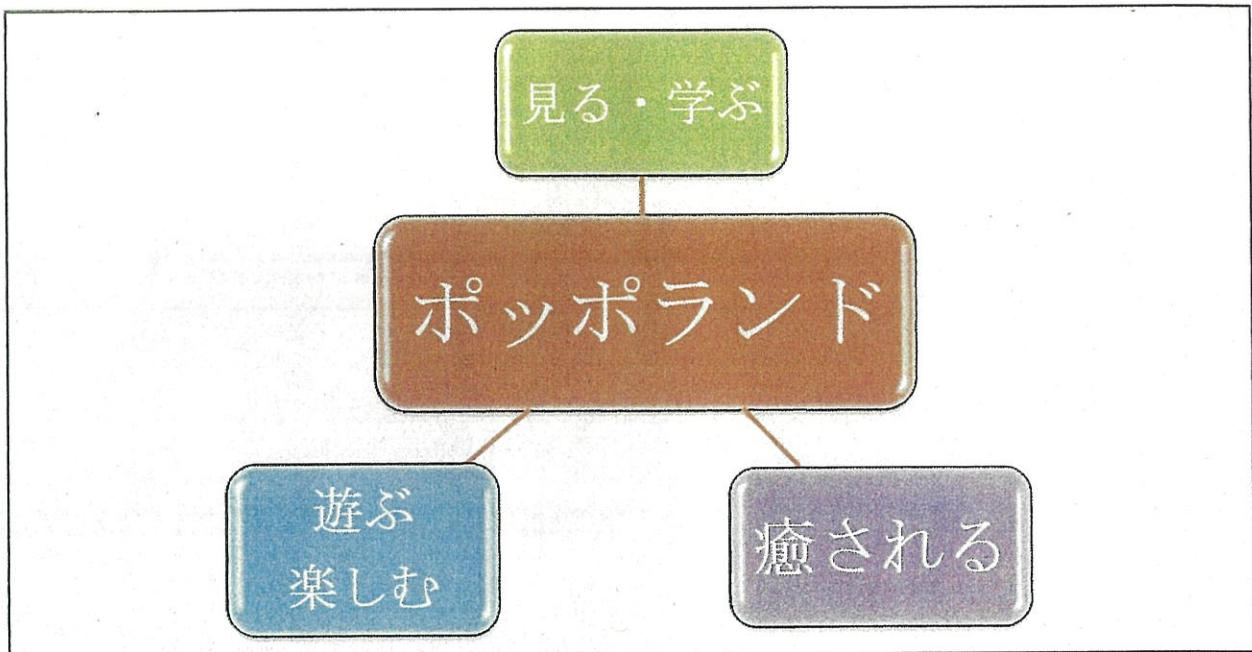


(参考) 『広報ふくちやま』2017年10月号表紙

(2) 事業提案

これまでのポッポランドの強みである「見る・学ぶ」の機能は継承し、「遊ぶ・楽しむ」機能を強化する共に、「癒される」という新たな機能を付加する。

(イメージ図)



① 「見る・学ぶ」

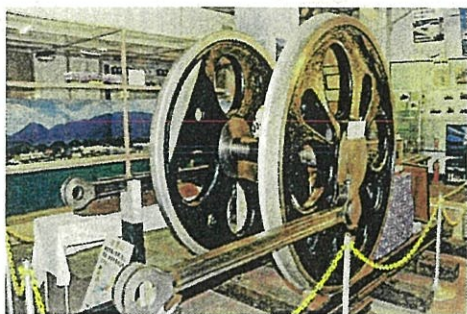
- SL 動輪 【現行】
- Nゲージ (ジオラマ) 模型 【現行】
- 旧国鉄・北丹鉄道資料の展示 【現行】
- 現 JR・WILLER に関する資料の展示 【新規】
- 「撮り鉄」参加型展示スペース 【新規】
- 旧国鉄・北丹鉄道ビデオライブラリー・AR 【新規】
- 市内の児童の校外学習の受け入れ 【現行+拡充】

(参考)・ 旧ポッポランドにおいてもやっぱり展示物を見る、ジオラマを見る、そういったところが非常に人気が高かったし、全国からもそれを求めて来られる鉄道ファン・鉄道マニアのかたがおられた (赤井委員)。

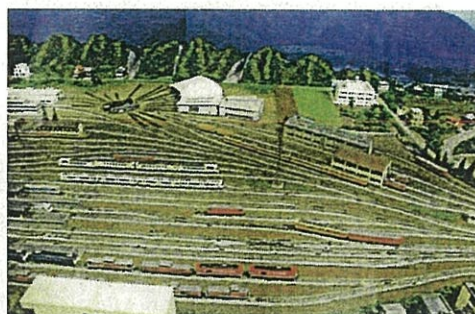
・ 今の子供たちはSLを知らない世代となるので子供たちを呼び込むという上では、今走っている鉄道の資料も必要ではないか (赤井委員)。

・ 壁をレンタルスペースとして撮り鉄の方に提供するの是全国から利用があるのではないか (赤井委員)。

- ・ スマホをかざせばそのスマホの画面に当時の映像がでてきたり説明書きを聞くことができるシステム(AR)がある。それを使うことでまちなか周遊やタウンミュージアムの手段として使えるのではないか(杉岡委員)。
- ・ 教育委員会などに働きかけて小学校・中学校の校外学習として必ず生徒さんは利用していただき、そうでないと鉄道のまち福知山を伝えていくことが達成できないのではないか(杉岡委員)。
- ・ 旧国鉄OBの皆さんのビデオライブラリーは、多少お金がかかってもクオリティ高いものを残していくべき。これが学びにつながる。学びというのは、将来の鉄道マンを養成するという話にもなるのではないか(赤井委員)。



SL 動輪



パノラマ模型



旧国鉄・北丹鉄道資料の展示



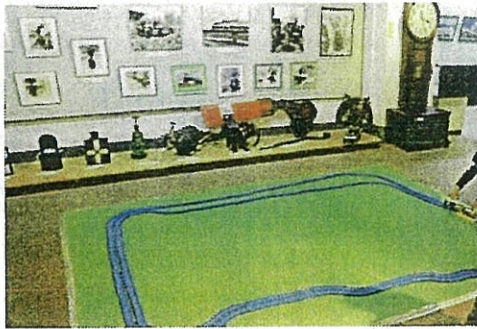
旧国鉄・北丹鉄道資料の展示

② 「遊ぶ・楽しむ」

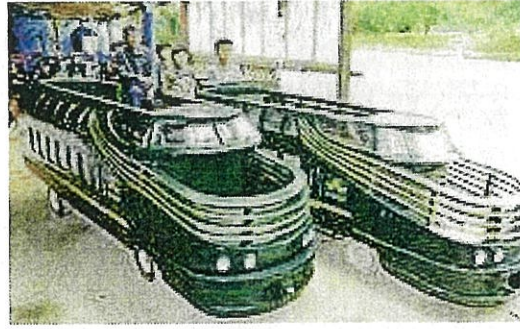
- プラレール広場の確保 【現行】
- バッテリーカー・模型電動車の設置 【新規】
- 制服・帽子のコスプレ写真コーナー 【現行+拡充】
- 定期ミニSL乗車会 【新規】
- カプセルトイガチャガチャの設置 【新規】
- スタンプラリー(市内・市外) 【新規】

(参考) ・ プラレールは旧ポッポランドにおいても来場者の増加の立役者的存在だったので必要不可欠なのではないか(赤井委員)。

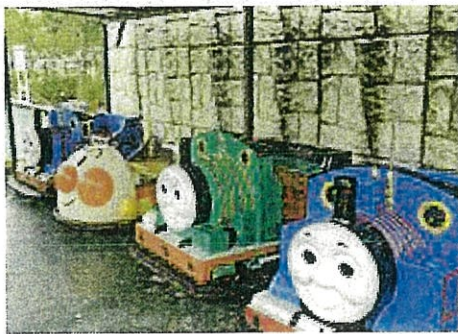
- ・ 単に遊具を置くだけではなく資金源の確保というところも考えて、バッテリーカーなどの設置が有効ではないか（赤井委員）。
- ・ 模型電動車などを常時運行し、乗車料を徴収することで収入源を確保しながらお子様に楽しんでいただくことができるのではないかと（赤井委員）。
- ・ ミニSLを持っている人は走らせられる場所を探している。自宅にあるレールはせいぜい数十メートルほど（足立委員）。
- ・ お子様になにか制服を着させてあげるとするのは親の喜びにもなるということによくイベントをされているが、JRの制服が着れるとか旧国鉄の制服が着れるとかそういったコスプレコーナーがあってもいいのではないかと（杉岡委員）。
- ・ カプセルトイ（ガチャガチャ）は視察先の施設でも収入源としては非常に大きな要素があるということであり、実際に子供たちは好きなので設置しては（赤井委員）。



SL 動輪



模型電動車



バッテリーカー



ミニSL 乗車

③「癒される」

- 昼食・カフェスペースの確保 【新規】
- 駅弁や記念グッズの販売 【新規】
- 授乳室・オムツ交換スペース、休憩室の確保 【新規】

(参考)・ 飲食については、調理のスペースがなくても、少しのスペースがあれば販売をされている事業者さんもおられるので、そういった方に出店いただくこともできるのではないかと。オリジナル駅弁はニーズがある（赤井委員）。

- 子供の来場、保護者の来場ということで欠かせないのは授乳室、オムツ交換スペースというのは欠かせないのではないか（赤井委員）。
- 参加証代わりの切符や記念グッズは欲しい人が多い（足立委員）。



オリジナルグッズ



休憩スペース



オリジナルグッズ



記念グッズ

(3)実施主体

①モデル：「公設民営」

他市町の先進事例や近隣市町の「民設民営」の事例も検討したが、単体では赤字ということで、よほど大きな資本がない限りは持続可能性が乏しい。よって、初期投資やハード部分などは「公」（一部「民」によるファンドなども検討）が支え、日常の運営については、経営の視点を取り入れながら一定収益もあげられるモデルを展開できる「公設民営」による運営とすることが望ましい。また、市民によるボランティアな支援団体があればなお望ましい。

- (参考)・ 設置目的に「持続可能な」「未来」というキーワードがあるので、赤字であろうとつづけることができる公設ということが必要ではないか (吉見委員)。
- ・ 行政がファンドを活用して資金を調達するという事例もある。「行財政が厳しいから公設公営はできません」ということではもうなくなってきている (杉岡委員)。
 - ・ 効果的かつ効率的な運営を行えるということや赤字でも続けることができるという公設民営が持続可能性という観点からも現実的な選択 (杉岡委員)。
 - ・ 資金調達ができ、収益性をもって、新陳代謝を図りながら、常に誘客できる施設ができるのであれば、それが理想ではないか (足立政委員)。
 - ・ 人を呼ぶノウハウや工夫という点で民営は欠かせないと思う (本多委員)。
 - ・ これまでのポッポランドに対しての運営補助金等は決して高くはないと思うが、行政からのお金のみに依存しては限界があるので、インカムをいかに増やしていくのかということを考える必要がある (杉岡委員)。
 - ・ ある程度お子様も負担なく入場料を徴収するシステムを構築すべきだし、市民パスポートなどの仕組みも収入源を確保しながら市民の利用を促進する上で必要ではないか (赤井委員)。
 - ・ ポッポランドは市民全員に来ていただける施設になるべきだと思うので、採算性も実現しながら、お金のある限られた人だけが利用できる施設にはならないようにする必要がある (杉岡委員)。

②想定されるステークホルダー

(鉄道関係)

- ・ 福知山鉄道ポッポランド運営委員会 (これまでの受託団体)、旧国鉄OB会、SL保存会、JR西日本福知山支社、WILLER TRAINS、全国の鉄道愛好家、観光ガイドボランティア、京都共栄高等学校鉄道同好会ほか

(子育て・教育関係)

- ・ (特活) おひさまと風の子サロン、(特活) わかばプラス、元気っ子ほか子育て関連団体
- ・ 教育委員会、市内小中学校

(福祉関係)

- ・ 公共施設などで喫茶・カフェを受託する福祉団体

(4) 設置場所

○リニューアルコンセプト

「みんなでつくる まち全体が鉄道のまち ポップランド」

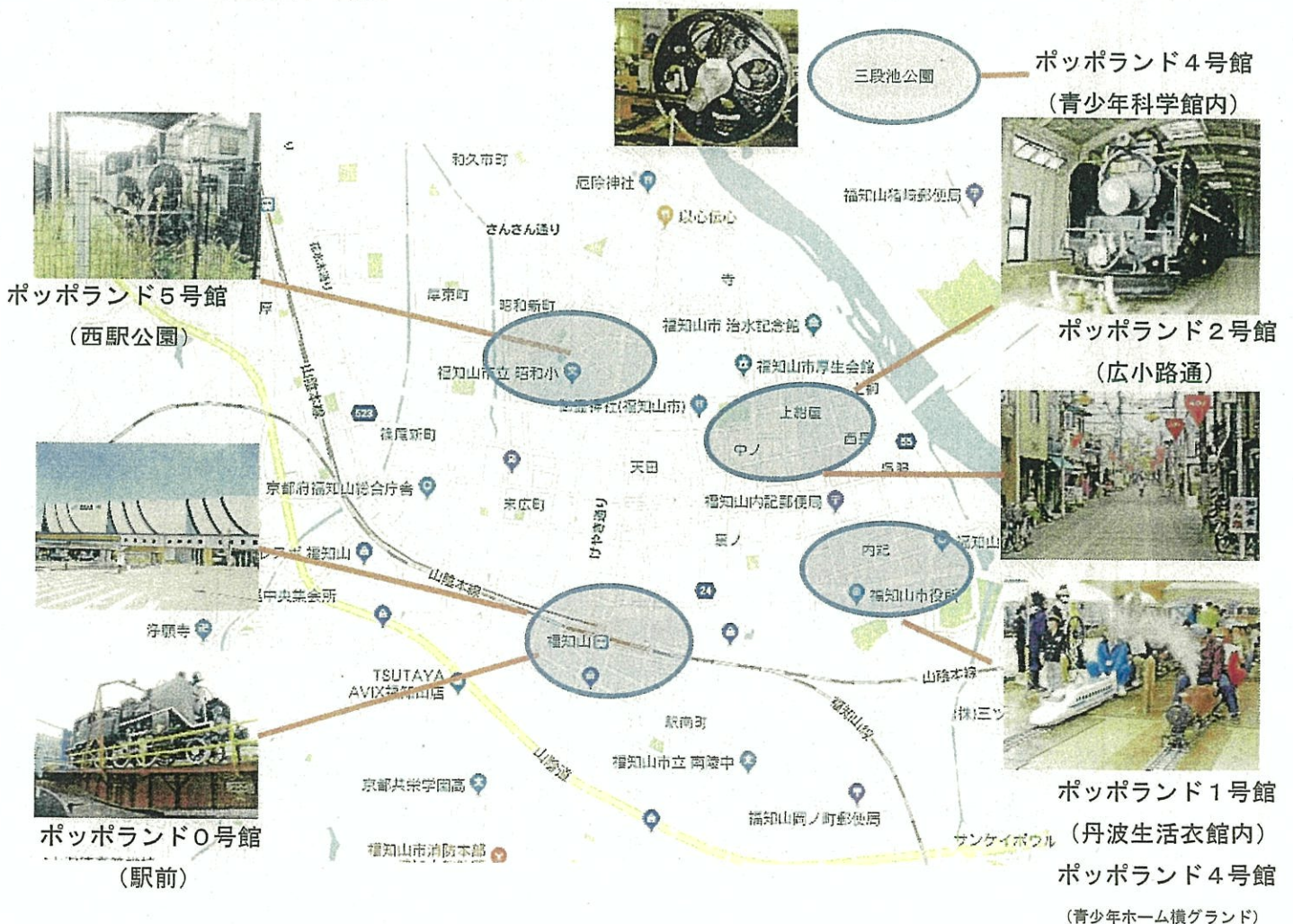
○概要

- ・ これまでは「1号館」と「2号館」の隣接する2拠点のみが「ポップランド」であった。
- ・ しかし、商店街の中にあるゆえ、駐車場がないなど中心市街地の観光誘客施設としても、子育ての場としても不便な立地にあった。
- ・ そこで、リニューアルにあたっては、福知山市内にある「鉄道のまち」の歴史や足跡も大切にしつつ、良い意味で「分散型」「ネットワーク型」のまち丸ごと鉄道ミュージアム、すなわち「まち全体が鉄道のまち ポップランド」というコンセプトとし、「鉄道」をキーワードに、まち全体を「周遊してもらう」仕掛けを作る（「ポップランド0～5号館」構想）。

(参考) ・ 機能を分けるという事がむしろポジティブな意味でも機能するのでは(杉岡委員)。

- ・ 駐車場が必要ではないか(榎原委員)。

○イメージ：以下の通り



○ 具体イメージ (案)

名称	場所 (管理者)	鉄道資源	期待される機能
ポッポランド0号館	福知山南口公園 (福知山市)	蒸気機関車と転車台	・歴史伝承 ・まちの顔
ポッポランド1号館	丹波生活衣館展示スペース (福知山市)	-	・SL 動輪 ・Nゲージ (ジオラマ) 模型 ・現 JR・WILLER に関する資料の展示 ・「撮り鉄」参加型展示スペース ・旧国鉄・北丹鉄道資料の展示 ・プラレール広場の確保 ・バッテリーカー・模型電動車の設置 ・制服・帽子のコスプレ写真コーナー ・授乳室・オムツ交換スペース、休憩室の確保
ポッポランド2号館	広小路通り (福知山市・ポッポランド運営委員会)	蒸気機関車	・歴史伝承 ・乗車
ポッポランド3号館	青少年科学館サイエンスシアター 青少年科学館談話室 (福知山市・緑化協会)	映像投影・展示 カフェ・物販	・旧国鉄・北丹鉄道ビデオライブラリー・AR ・旧国鉄・北丹鉄道資料の展示 (一部) ・昼食・カフェスペースの確保 ・駅弁や記念グッズの販売 ・カプセルトイレ・ガチャガチャの設置
ポッポランド4号館	青少年ホーム横グラウンド (福知山市)	鉄道が見える丘	・定期ミニSL乗車会 ・バッテリーカー・模型電動車の設置・乗車
ポッポランド5号館	西駅公園 (福知山市)	北丹鉄道 (福知山西駅)	・歴史伝承

※ 市内の児童の校外学習の受け入れ、スタンプリリー (市内・市外) は全体。

(5) 資金調達

①設置費用（イニシャルコスト）

- ・ イニシャルコストとしては、「移転費用」「修繕費用」「修理費用（Nゲージ）」が掛かる。
- ・ これらを全て税で賄うのではなく、ふるさと納税やクラウドファンディング、ソーシャルインパクトボンドなどを活用し、市民やポッポランドのファンからもお金を集める仕組みが必要である。
- ・ その際、資金に協力してくれた人には「市民パスポート」や「年間パスポート」を渡し、ファン（リピーター）として関わり続けてもらう PR（Public Relations）につなげていくことが期待される。

（参考）・ 東近江市では、ソーシャルインパクトボンドという手法で資金調達をし、補助金改革につなげている（井上委員）

②運営費用（ランニングコスト）

- ・ 基本的には、これまでのような委託金による運営（収入ゼロ）ではなく、有償化できる部分は有償化し、「入場料（100円程度）」や「乗車料金徴収（100円程度）」「カフェ売り上げ」や「物販」「スペース賃借料」などにより独立採算をめざすことが望ましい。
- ・ 人件費を下げるためにも、ポッポランドの運営ボランティア（サポーター）を募集し、「市民参加型」で盛り上げてもらうのも一案である。
- ・ カフェや物販する場所については「ネーミングライツ」など広告収入を得る仕組みなども検討するのも一考に値する。

（参考）・ 舞鶴市の子育て支援施設では、親世代のボランティア運営委員がいる（杉岡委員）

(6) その他

- ・ スタンプラリーで全てのスタンプを集めた方の特典として、加悦のSL広場の割引券をプレゼントするなど、近隣市町の鉄道資源とも連携することが望ましい。
- ・ 議会における請願の採択の重みも鑑み、なるべく早期の発展的再開がなされることが望ましい。

文責：杉岡 秀紀

